

広島都市学園大学 健康科学部保護者の会 会報



第 12 号

発行 広島都市学園大学健康科学部保護者の会
発行先 〒734-0014
広島市南区宇品西五丁目13番18号
TEL 082-250-1133
FAX 082-250-1134

【「こころ」の由来：広島都市学園大学の理念である「心技一体」の1文字からつけています。】



広島都市学園大学は、平成21年4月に健康科学部看護学科が開学してスタートしました。

開学4年目で初の卒業学年がいる年度の平成24年7月29日(日)午後、広島都市学園大学宇品キャンパスに保護者35組38名、大学から(役職はいずれも当時)古澤敏昭学長(現総長)、古澤幸治副学長、大谷美奈子元副学長、溝上五十鈴元副学長、津田右子元図書館長、古川忠則元教授、寺脇義則前事務局長の7名が出席され、「保護者の会設立準備会」が開かれました。審議された審議議題は、「保護者の会規約(素案)」と保護者会理事の選出でした。この準備会で総会開催を決議し、

初代会長 柏尾康男様、
副会長 丸山英治様

理事 日高さつき様
安錦珠様

監事 右田和伸様
柿本文枝様
金子公恵様
坪山一恵様

同年12月1日(土)、初めての保護者の会総会が開催され、前述の理事・監事が正式に承認されました。

次に、年会費決定の審議では、「保護者の会規約(素案)」第3条(事業)での各援助に要する費用調査を行うこととなり、「1年次単位で学生負担

の総額、一人当たりの金額の実績を調べ、12月15日(土)の役員会にて審議されました。第3条の事業とは、次のものです。

- 一、学生の課外活動の援助
- 二、学生行事(大学祭等)への援助
- 三、大学行事(学位記授与式等)への援助
- 四、国家資格等取得への援助
- 五、学生の就職についての協力援助
- 六、教育上必要な施設・設備に関する援助
- 七、教育上必要な家庭との連携
イ 教育懇談会の開催
ロ 会報の発行・送付
- 八、育英に関する事業
- 九、会員相互の親睦のための必要な活動

一〇、その他本会の目的を達成するための援助

翌年、平成25年1月19日に196名(委任状含む)の参加者で開催されました第2回保護者の会総会において、年会費2万円と納入方法が承認されました。また、古澤学長(当時)から、本会は互助精神に基づき運営していただきたいと述べられ、出席者からは、保護者の会を通して、学生・保護者・大学が連携を図れる体制を進めて欲しいとの意見が出されました。本会が充実し、実のある会への発展を目指すことを、最後に確認されています。

年度が変わった平成25年4月20日

(土)に開かれた総会には、新設されたリハビリテーション学科の保護者も加わり、364名(委任状含む)の出席で開催され、新入生保護者から2名の理事増員が認められています。後の役員会で、角明睦子理事と正戸友喜監事が選任されました。予算面では、実習旅費援助額の算定基準に往復1,000円(片道500円)を超える額を援助すること、会費未納者には経費援助は行いませんが、会費未納者を出さないようにとの防止案として、入学時に一括納入が話し合われました。しかし、入学時の学納金以外の徴収は、学納金と勘違いされることが、文部科学省からも行わないよう通達が出ていますので、どの大学等も行っていない。現在新1年生には後期授業の開始前9月頃に会費納入をお願いしています。

このときの総会では、今後の決算予想を、翌年度繰越額400万円から500万円程度と想定した予算案を作成されています。平成29年度の最新の決算では、看護学科、リハビリテーション学科とも400万円以下なので、この当時の想定案の妥当性が証明されたのかなと思います。

この総会とその後の役員会では、授業の環境改善等について意見・要望が出されています。

また、保護者の会平成25年度の決算では、約57%の保護者の方が加入



右の写真は、健康科学部保護者の会総会 平成29年4月

していただいています。今年85%の加入率と増えています。クラブ活動では、当初、宇品キャンパスに体育館が無かったため、学生は学園バスで宇品キャンパスから西風新都キャンパスの広島医療保健専門学校体育館(現・リハビリテーション学科の体育館)まで移動していたと記録されています。

保護者の会規約の第3条(8)育英に関する事業について、何度か話

し合われ、学生保護者の死亡や不慮の事故等に際して経済的支援を行う方向とされましたが、当面は具体的な事例が発生した際に、その都度、役員会で検討するとされました。また、保護者の会からの卒業記念品は当初、白いナース時計が贈られました。



第3代健康科学部 保護者の会 会長 西村 徳 弘

丸山会長の後任として、保護者会長となりました西村と申します。微力ではありますが、保護者会に尽くす所存ですので、よろしくお願いいたします。

「親の想い(娘へ)」

今さらだけど、都市学園に入学して良かったね。センター試験の結果がよかったのに、色々理由をつけて都市学園に入学したよね。公立に入学して欲しかったけど、今は都市学園に入学してくれて良かったと思ってるよ。

勉強以外にもすることは沢山あるから頑張る。充実した大学生活を送ってね。大学生活もあと1年。都市学園に入学してよかったと後悔のないように頑張るって！

「保護者の方へ」

みな様におかれましては、それぞれの想いや環境でご子息様、ご令嬢様を広島都市学園大学に入学させられたことと思います。「親」「子」「先生」「縁の下の方(事務室)」「お爺さん、お婆さん」など立場もそれぞれですが、思いは一つ。「卒業と資格の取得」この想いを語るのには保護者会です。様々な立場から学生を応援しましょう。

また、応援の仕方、支援の仕方はどうしたら良いでしょうか。どんな事を指導し、どんなメッセージを送れば良いのでしょうか。

そんなことを話しながら、学生の「卒業と資格の取得」の支援ができる保護者会でありたいです。

最後に、平成30年7月豪雨災害で被害を受けられたすべての方に心からお見舞い申し上げます。



スクールカウンセラー 三宅 舞

この度、私はこころのケアのために災害のあった坂町に緊急支援に入らせていただきました。臨床心理士が行う緊急支援とは、災害・事故・事件などの緊急事態の直後に行う援助活動のことです。支援内容は学校や地域コミュニティの人々の災害時に起こる体や気持ちの反応を受け止め、安心と安全のなかで個々の成長・発達を支援し、本来の機能を回復する援助を行います。

災害後の一般的な心理的变化は、時期に応じてニーズも変化していきます。災害直後による一般的な心理的变化について、ご紹介いたします。

被災直後は、誰もがショックを受け、茫然自失の状態になります。気分は消極的、抑うつになります。個人差はありますが、災害時から数時間から数日続きます。次に、災害から数日経つと被災者が被害の回復に向かい、一丸となって積極的な気分になります。この時、一見、元気に見える時期が数日から数週間、または数カ月続きますが、生活のストレスは増大する時期です。災害後、数週間以降になると混乱が収まり始め、被災者の間にも被害や復旧の格差が始められます。無力感や疲労感が高くなり、取り残された人は虚脱感、怒り、うつ気分などが出ます。

復旧が進み、生活の目的がつき始めると、現状を受け入れ、気分が安定し、将来のことを考えられるようになります。このように、災害直後から様々な形でこころは動きます。

今回、私は災害があった直後から被害を受けられた方々のストレス反応の出現に対する対処方法について支援を行いました。また、被害を



受けられた方だけではなく、災害場所や避難所などで援助活動をされている人々へのメンタルヘルスケアも行いました。被災地では、マスメディアの方が子ども達に災害での悲痛な胸の内を引き出させるような質問を繰り返している姿を何度も見ました。このような質問では「怖い」

「辛い」「悲しい」と答えます。災害直後から少しずつこころが回復しかけていくのに何度も思い出させることで記憶に擦りこまれてしまうことがあります。また、ボランティアの方の温かい協力によって、たくさんの方の勇気を頂き、前を向いて復興作業を進めていく被災者が多くいらっしゃいました。しかし一方で、ボランティアに求めている人の熱意と自分の気持ちとの折り合いがつかず、混乱してしまうという方も少数ですが

三宅舞先生は、古沢学園以外に小、中学校のスクールカウンセラーや広島市の子育て支援事業、また広島県共済組合において教職員のメンタルヘルス事業の心理士として活動されています。

本学ではスクールカウンセラーとして、学生を中心にカウンセリングを行っているいただき、同じ古沢学園の専門学校福祉リソースカレッジ広島で非常勤講師としても勤務されています。(事務局)

いらっしやいました。

災害からもうすぐ8か月が経とうとしています。元の生活に戻っている所も増えてきています。本格的に復興が始まってくると、復興の話が増え、被災者は世間の関心が薄れてくると感じるようになります。精神的な衝撃から比較的立ち直りがスムーズな人と、取り残された感じを強く抱き、なかなか立ち直れない人に分かれていきます。また、仮説住宅に移転した場合などは、長期的な環境や生活の変化が二次的なストレスの原因になったり、取り残された感じが募ってしまうと孤立無援の心境になったりします。特に、もともと住んでいた地域の人間関係から離れてしまった高齢者にその傾向が多くみられます。中には、うつ状態、アルコール問題などが出現する人もいます。生活面でひきこもりがちになり、支援者が状況を把握できない人も出てくるため、心的外傷後ストレス(PTSD)が見過ごされてしまうこともあります。

こころの回復は、一人ひとりで進められていくものです。周りに無理に合わせる必要はないので、自分のペースで回復をしていただきたいと思います。

私は、現在も定期的に支援に入らせていただいておりますが、今後も長期的な支援を行っていく予定です。もし、お困りの方がいらっしやれば、次のサイトを参考にしてみてください。

○広島県臨床心理士会
<http://www.hscpp.jp/>
○支援者のための災害後のこころのケアハンドブック 静岡大学
<http://www.shizuoka.ac.jp/info/cafe/hnbk.pdf>



作業療法専攻
中田 弥 来
理学療法専攻
槌井 久

こんにちは。私たちは園芸療法という講義を受講し、園芸福祉士認定試験を受けて、園芸福祉士初級を取得しました。園芸療法の講義では、植物をどのように地域で活用していくかという園芸福祉の可能性など、幅広い知識を得ました。そして、資格を取得した生徒が集まり、野菜作りの活動を始めました。

今年から活動を開始し、5月にゴーヤ、きゅうり、トマト、ウリの種を植えました。毎日、当番制で愛情を込めながら水やりをしまし



た。雨にも負けず、真夏の暑さにも負けず、野菜はあつという間に大きく成長しました。そして8月、待ちに待った収穫日です。みんなで野菜を収穫し、パーティーを開催しました。ゴーヤチャンプルにそうめんウリのザーサイ、トマトときゅうりのサラダ。みんなで手分けをして調理しました。とても美味しかったです。次回は違う種類の野菜も育てたいです。



看護学科2年
澤田 拓 治

11月24日に広島都市学園の大学祭「みやこ祭」が行われました。私は大学祭の副実行委員長兼看護学科代表として企画し、準備してきました。去年も私は1年生の時に大学祭実行委員として企画・準備などを行っていました。大学祭は学生だけで主催することは3回目となり、まだまだ浅い歴史の中でどうすれば大学祭として成功するのか、どうすれば去年よりもっといい大学祭になるのか試行錯誤しながら、他学科と協力し準備しました。

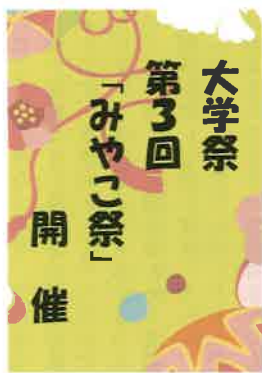
他学科との協力は難しく、リハビリテーション学科はキャンパスが離れているため、連絡が適切に行き届かないことが不安でしたが、実行委員全員が一人一人意識して連絡を取り合っていたので、コミュニケーションエラーも少なく、情報伝達が進む円滑に行うことができました。看護学科としてはメインとなるお化け屋敷や子どもたちが喜んでくれるバールンアート、家族で学べる歯科教室、献血への協力を企画しました。大学祭に来てくださる方々に楽

しんでいたようにどうすればいいのかわからず、看護学科の実行委員で考えながら準備しました。また、今回の大学祭の企画・準備にあたり、看護学科1年生の実行委員にはとても助けてもらいました。初めての大学祭で右も左もわからないなりに「澤田さん、これはどうすればいいですか?」「こうしてみてもいいでしょう?」など、積極的に参加してもらい、とても頼もしい存在でした。そのほかにも、1年生からともに実行委員としてやっていた同級生や、2年生から新たに実行委員として参加してくれた人、看護学科の先生方、他学科の先生方、事務の方には本当にお世話になりました。

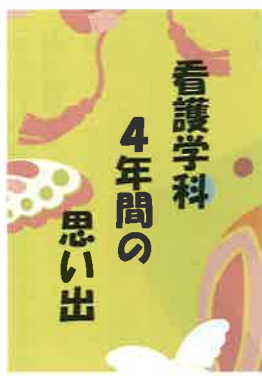
迎えた大学祭本番は沢山の方々に来ていただいて、成功に終わりました。お天気も良く、300人ほどの家族連れも確実に多くなりました。また、運動に障害のある方々が「大学祭に参加したい、交流したい、ついでには体の動きの補助をしてほしい」と申し出てこられ、常に学生たちが周りについていました。こういった依頼は看護やリハ関係の大学として、とても意義があることだと思います。実行委員の一人一人が率先して動き、自分の役割を全うしてくれたからこそ成功だと思っています。

本年度大学祭が11月24日(土)開催されました。第3回みやこ祭は、おかげさまで盛会裡のうちに終了いたしました。晴天の下、多数の住民の方々にも多数ご参加いただきました。ご参加いただいた皆様、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、看護師と保健師の両方の資格を取得するため、本学を志望しました。3年次では、半年間の実習が始ま



事務局長 加本 寛



看護学科4年 小田 知佳



「みやこ祭」は、本学学生と地域の皆様「宇品」という場で交流を深め、よりよい関係を築き上げたいとの願いが込められています。学生たちが学んだことの展示、体験いただけるコーナーをはじめ、ステージ企画や各模擬店を用意し、来場いただいた方に楽しんでいただけたと思います。

最後になりますが、大学祭に関わってくださった皆様、「保護者の会」からの多額な運営費助成に心より感謝いたします。



した。両方の資格を取得できる大学は少なく、2年時に選抜により保健師課程に入れることや、熱心に指導してくださる先生がいることが、この学校の魅力だと感じています。

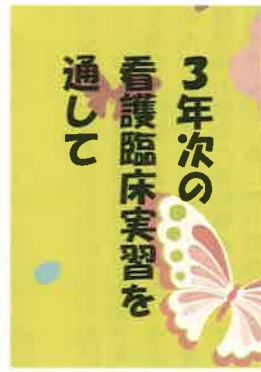
本校での思い出は、たくさんあります。1年次では、コミュニケーション技法の一貫で江田島研修に参加し、同学年、先輩、先生、こども教育学科との交流を深めました。宿泊研修を行うことで、お互い知らないことをたくさん知る機会になったり、正しいコミュニケーション技法を学ぶきっかけになったりして充実した研修でした。授業では、基本的な看護の知識を学び、看護師の素晴らしさを実感していききました。

2年次では授業内容も、より一層専門的になり、また保健師課程にも選ばれたことで、さらに公衆衛生の授業も始まりました。私は、1人暮らしをしているため、勉強時間を確保しながら、家事やアルバイトと両立することがとても大変でした。限られた時間を有効に活用すること、効率よく物事を行えるようになってきました。5月には看護宣誓式があり、看護師としての責任感を抱き、臨地実習への意志を固めることができました。

上と右は1年生後期の授業 生活援助技術学Ⅱ ー生体機能管理技術ーの授業風景



りの人に恵まれ、支えられながら頑張ることができました。この4年間の学校生活は、親元を離れ、新しい環境で過ごしていく中で、周りに支えられていることが多く、これまでの生活が当たり前のことではないことを実感でき、とても充実した4年間でした。私が経験した、周りに支えられているから自分がここまでやってこれたという思いは看護を行う上でとても重要なキーワードです。そういう魅力的な看護の世界に入ることを目指して、今、国家試験勉強を頑張っている毎日です。看護学科、リハビリテーション学科の国家試験を受ける受験生にご声援をお願いします。



看護学科3年
島田 匠海

9月より領域別の看護臨床実習が始まりいろいろな病院、施設で実習させていただきました。その中でも老年領域での実習について話したいと思います。

私が受け持たせていただいた患者さんは尿意の訴えが多くトイレに行くのにも介助が必要な方でした。尿意は多い時には10分に1回のペースであり看護師のトイレ介助が遅れ失禁してしまうことがほとんどでした。このような現状を見て私は尿意の訴えがあった場合、自分が「トイレ介助を行い失禁せずにトイレで排尿できるようにする」という目標を立て、そのための計画を立て実施しました。

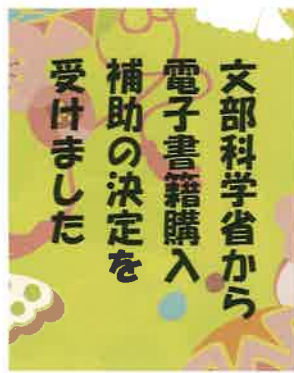
トイレ介助ではある程度、患者さんをイメージして手順を考えていきましたが、実際やってみると患者さんはイメージ通りには動いてくれ



ず、トイレに行くまでにとっても時間がかかってしまいました。どのようにすれば安全に患者さんの残存機能を活かしながら患者さんのペースに合わせた介助ができるのか指導者さんや教員からの助言、他の学生との意見交換を通して考えることができました。患者さんに合ったトイレ介助を行うために3つのことを意識しながら行いました。まず1つ目は患者さんの症状や状態を関わりの中で観察し、理解することです。患者さんが声を発した時は、すぐに病室に跳んで行けるように耳を澄ませて体勢作りをしました。その上で患者さんが自分のできる範囲は自分でやってみてもらえるようにベッドからトイレまでの動作一つ一つにおいて具体的な手順を考えました。2つ目は患者さんと息を合わせることで、声をかけるタイミングや話す速度、大きな、向きなど具体的にどのような声掛けをしたら良いのかを考えました。3つ目は常に笑顔で元氣よく接することです。笑顔で元氣よく接することで患者さんがトイレに行くことに対してのやる気を上げ、積極的にトイレに向かうことができるようにしました。目標として挙げていた

トイレで排尿することができるようになるまでは達成まではできませんでしたが、実施と修正を繰り返すことで患者さんに合ったトイレ介助を行うことができました。

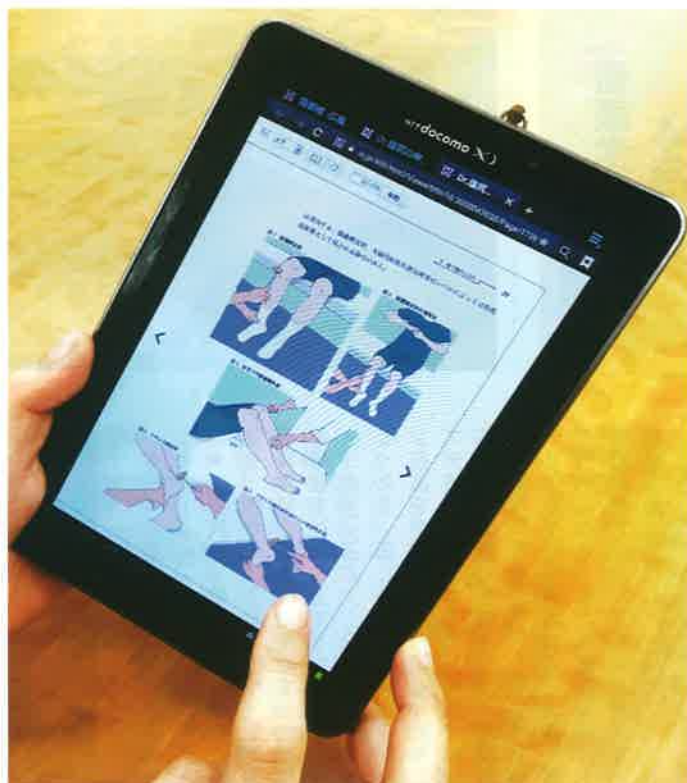
老年領域の実習を通して、個性のある看護を考えることが大切であると学びました。私自身、実施と修正を繰り返すことで患者さんの状態に合ったトイレ介助ができていくことに充実感を感じることができました。それと同時に患者さんからの「ありがとう」という言葉を言われるたびに看護師としてのやりがいを感じることができました。患者さんは年齢や病気によって今までできていたことができなくなり、やるせない思いを抱えている方が大勢いると思います。看護師としてそのやるせない思いを極力感じさせないようにニーズに対応した個性のある看護を提供したいと思っています。そして、どんな時でも患者さんのことを一番に考えられるような看護師になりたいと思っています。



最近、タブレットやパソコンを使った電子書籍が増えていきます。図書館では、これまでも実習や就職活動に使える本を電子書籍で購入してきましたが、この度、平成30年度私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）で精選リハビリテーション研究コレクション（電子書籍版）事業経費1,096,740円の内、705,000円の交付を受けて、さらに電子書籍を充実させることができました。電子書籍の良い点をいくつか挙げてみます。

・紙の本と違い貸出中の心配が無い。実習に持っていこうと思っていた本が既に借りられていた、という心配がなくなります。
・重たい本を持ち歩かなくて良い。必要な箇所だけ、PDFでダウンロードし、データで持ち歩くことが可能です。

この度の補助金では、高額な大系本や実習に役立つ本を多く購入することができました。特に『最新整形外科学大系』は、広島県内では広島大学霞図書館、県立広島大学三原学術情報センター図書館の2館しか所蔵していなかった資料です。これからも、利用しやすい図書館



また、タブレットやスマホで気軽に見ることが出来ます。

を目指して、紙の本だけではなく電子書籍も増やしていきたいと思っています。

・禁帯出の本も気軽に利用できる。辞書・事典・大系本など、貸出し不可の資料も、PDFでダウンロードすることが出来ます。

・検索機能が付き。検索機能が付いているので、知りたい情報に素早くたどり着けます。

・所属キャンパス以外でも閲覧可能。紙の本だと、所属キャンパスの図書館で所蔵していない場合には、蔵書館等の相互貸借で取り寄せるので、手にするまでに日数がかかります。電子書籍であれば、取り寄せる必要はありません。



1年前にスタートした大学院は社会人を受け入れますので、18時から21時10分までの夜間に授業を行っています。そのため西風新都キャンパスの図書館は21時半まで、宇品キャンパスの図書館は20時45分まで開館しています。

このためか、院生だけでなく、学部学生1年生から4年生まで、夜遅くまで学校に残り、勉強する姿が多く見られるようになりました。しかし、西風新都キャンパスは、夜の照明が少なく、学外も暗い環境で、不審者目撃情報も寄せられていましたので、広島市安佐南区役所が西風新都キャンパスの第2駐車場近くの道路に街灯を設置していただき、安心できる環境ができました。

古澤敏昭総長からの西風新都キャンパス夜間照明設置の指示により、第1駐車場と第2駐車場に照明が新設されました。



平成30年4月から、主に、第1駐車場（右の写真）を女子学生、第2駐車場（左の写真）を男子学生が使用しています。

